

英国の研究評価システムREFとそれへの大学の対応

白井 哲哉 (京都大学 学術研究支援室)

Research Excellent Framework (REF) とは



Research Excellent Framework (REF)とは、UKの行政機関であるThe Department for Business, Innovation & Skills (BIS) の下にあるHEFCE (Higher Education Funding Council for England) が中心となって作成している「**研究の質を評価する**」システム

REFでの評価は

- 評価基準や評価レベルの設定は毎年度検討される
- 定量的指標と専門家パネルによるレビューによって実施
- 専門家パネルは以下の4つの主要パネルに分類

- ・ Medical and Biological Science
- ・ Science and Engineering
- ・ Social Science
- ・ Arts and Humanities

- それぞれに対して、**Output** と **Impact** と **Environment** の評価指標が設定

Output

- ・ 研究のアウトプットの質を計るもの
- ・ 論文の数など定量的なデータが評価される項目として主に含まれている
- ・ これらの項目の設定は4つの分野ごとによって異なっている
- ・ 全ての項目について、4段階の星印による評価レベルが設定されている

Impact

- ・ 国の政策や社会・経済に影響を与えた成果に対する評価
- ・ 何がどのように影響を与えたのか、それを説明するストーリーを作成する必要がある
- ・ REFで初めて盛り込まれた評価項目だが、2014年度には25%になる

Environment

- ・ 研究環境・設備についての項目、その研究の継続性についての評価

REFが始まるまでの経緯

- 2006年より、学問領域間の違いに留意した研究評価と研究資金配分の見直しを開始
- 2008年、2009年にパイロットとして研究費配分の基礎となる研究の質の評価の仕組み Research Assessment Exercise(RAE)が実施
- 2010-2011 RAEの試行を踏まえて改訂された評価基準・方法(REF) が発表・実施
- 2014年度から新たなREF2014が実施される

Output の例 (Arts and Humanities 分野)

- books (authored or edited)
- journal articles
- published conference papers
- exhibition or museum catalogues
- creative writing and compositions
- databases
- dictionaries
- artefacts
- software design and development
- films, videos and other types of media presentation
- performances and other types of live presentation
- the creation of archival or specialist collections to support the research infrastructure
- chapters in books
- working papers
- electronic resources and publications
- translations; scholarly editions
- curatorship and conservation
- grammars
- digital and broadcast media
- designs and exhibitions
- advisory report

意見募集！ 「日本にREFのような研究評価システムは必要か？」 意見募集！

【以下当日付箋で貼り付けられたコメント】

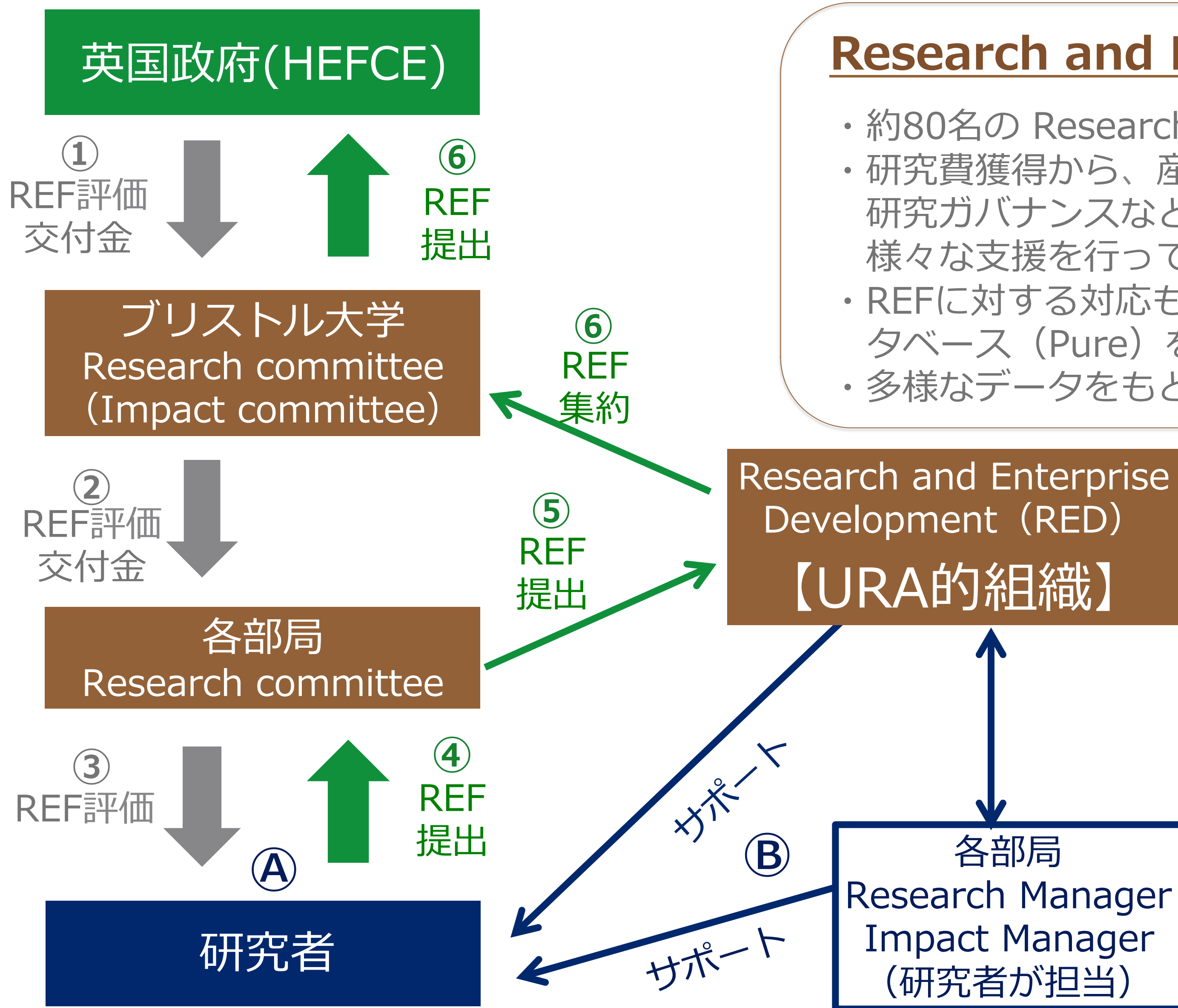
- ・ REFのシステムにはURAが必要と思われる。・英国でも始まったばかり、もう少し様子を見ては？
- ・ URA普及・定着の意味でもあったほうがよい ・研究者の負担がますます増える。それで良いの？
- ・ 既存の論文評価は限界が来ている。新しい学術分野の発展にもREFのような多様な評価があって欲しい
- ・ 日本特有の研究力がなくなってしまうような気が... そもそも「研究力」って？
- ・ REFの評価も所詮は決められたフレームワークの評価である。その枠外の研究力が失われてします。
- ・ 研究者の多様な発想に基づく研究推進のさまたげにはならないか？
- ・ こは省庁も大学も研究者も多大な労力がかかるのでは？ ・文科省には無理でしょう。

必要

必要ない

英国ブリストル大学における研究評価体制 (REFへの対応)

- REFに沿った研究評価によって各大学への交付金が変わる
- 大学本部はREFに沿った研究評価によって、各部署への交付金を変えている
- 各部署での研究者の人事評価はREFに沿って行われ、それによって待遇が変わる
- 毎年REFに沿った研究成果と次年度の達成目標を、自部署に提出する
- 各部署はREFに沿った自部署の研究者のデータをRED(URA的組織)に提出する
- RED(URA的組織)はREFに沿ったデータを集約し、大学本部はそれを政府に提出する



Research and Enterprise Development (RED)について

- ・ 約80名の Research Manager (≒日本のURA) が在席
- ・ 研究費獲得から、産学連携、知財、コンプライアンス、研究ガバナンスなど Pre-Awardから Post-Awardまで様々な支援を行っている
- ・ REFに対する対応も担っており、同時に研究活動データベース (Pure) を運用している
- ・ 多様なデータをもとに研究推進戦略も立案



Director: David Langley

- 研究者は毎年、REFに沿った評価にさらされている (人事評価は5年に一度) REFの4段階 (☆☆☆☆) の評価は、研究者が政府の研究資金を獲得することにも影響する
- どのような成果を出せばREFの評価に資する物となるか、REDのメンバー (≒日本のURA) や各部署の Research Managerが個々の研究者にアドバイスや情報提供を行っている (Impactはストーリー作りを提案)

URA的組織がREFの情報を集約することで、**研究者・研究成果を網羅的に把握できる**。それをもとに、研究推進戦略の立案や研究マネジメントを行っている

RED (URA的組織) は大学からも、研究者からも欠かせない存在となっている